



JCSAT-13のイメージ写真と同機の打ち上げ用ロケットの機体に掲げられる震災復興支援ロゴ(SKY Perfect JSAT Corporation提供)

特集

通信衛星パワー 続々新サービス登場

北朝鮮が怪しげな「衛星」の打ち上げに失敗した。かつて太平洋戦争末期、敗色濃い大日本帝国は風船爆弾なる珍妙な爆弾を開発し米国を襲った。殺傷力は問題外だったが、当時特攻という自爆を繰り返していた大日本帝国は異様な心理的威圧感を米国に与えたものだ。当時の風船爆弾の現物がスミソニアン航空博物館に展示されている。今度、スペースシャトルが同館に展示される。宇宙開発、宇宙利用は和戦両面を持つデュアルユーステクノロジーだ。国際競争による宇宙開発・宇宙利用の時代が始まる。

国連の常任理事国(5カ国)が基本的に核や宇宙開発をコントロールしている。これら「司祭国」の所業に憧れつつ「平和大国」日本もささやかに外国の技術や基盤を借りて独自の宇宙でのR&Dに挑戦してきた。そして外国のパワーに依拠しつつ、新サービスへの挑戦を開始している。

2012年5月16日、JCSAT-13号の打ち上げに成功すれば、その幕は本格的に切って落とされる。通信衛星を利用した新サービスへの期待感が高まることになる。(天野昭)

JCSAT-13 5月16日打ち上げ

アリアンスペース社のPower³

ワンテン新e2やNOTTVサービス

衛星携帯電話「Isat Phone」

寄稿：成長する中国の衛星放送
